

トビウオ通信 (12月号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

今月はイカ釣り漁業によって浜田漁港に水揚げされたスルメイカとケンサキイカの状況と、両種の日本海における資源動向について報告します。

《平成 17 年度のイカ釣り漁業とイカ類の資源動向》

スルメイカは平年並み

浜田港に水揚げされるイカ釣(5トン未満)、小型イカ釣(5トン以上30トン未満)、中型イカ釣(30トン以上)によるスルメイカの漁獲量と金額および月別漁獲動向を図1と2に示しました。尚、平成17年は11月までの集計値です。浜田港におけるスルメイカの漁獲量は、平成14年に2,178トンに急増した後、2年連続で減少しましたが、平成17年は11月までの累計値が1,209トンで、前年同時期の166%、平年(過去5年平均)の103%、同じく水揚げ金額も5億772万円で、前年同時期の157%、平年の119%と3年ぶりに増加傾向となりました。

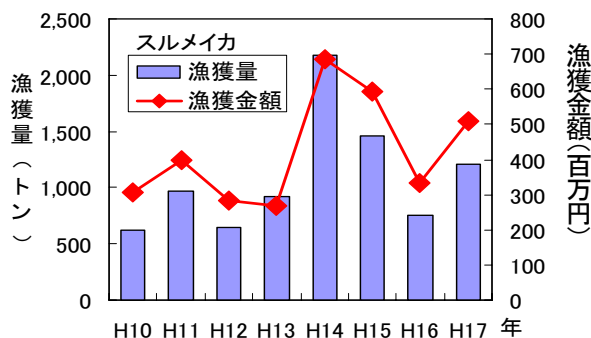


図1 浜田港にイカ釣り漁業により水揚げされたスルメイカの漁獲動向 (H17は11月までの値)

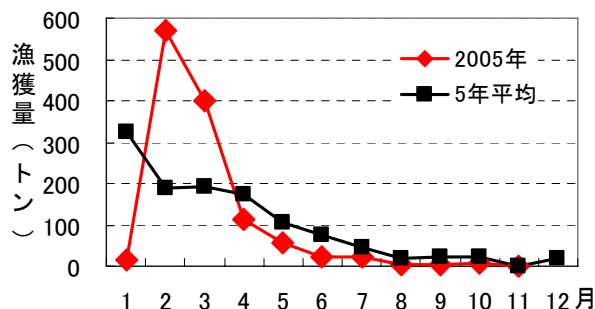


図2 浜田港にイカ釣り漁業により水揚げされたスルメイカの月別漁獲動向

平成17年の月別の漁獲動向を見ると、1月は漁場が竹島の南方や見島～対馬の間の海域に形成されたため漁獲量は少なかったものの、2,3月には見島沖から島根県沖合海域に好漁場が形成され、過去5年間で最高の水揚げとなりましたが、4月以降は平年を下回って推移しました。

ケンサキイカは大幅減少

ケンサキイカ(シロイカ)の漁獲量と金額の動向を図3と4に示しました。浜田港におけるケンサキイカの漁獲量は平成15年をピークに以降は減少傾向にあり、平成17年は11月までの累計値が295トンで、

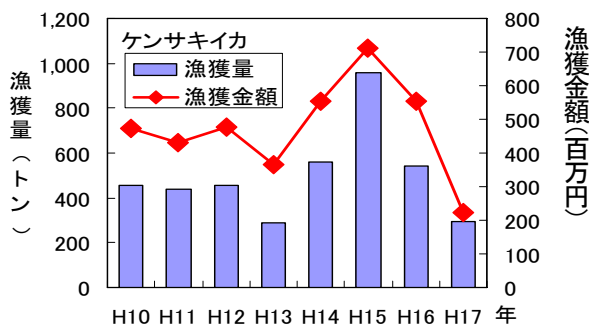


図3 浜田港にイカ釣り漁業により水揚げされたケンサキイカの漁獲動向 (H17は11月までの値)

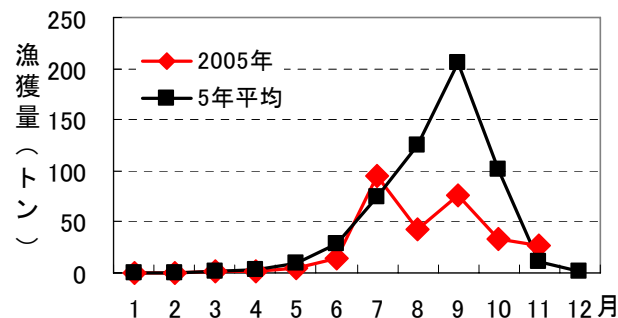


図4 浜田港にイカ釣り漁業により水揚げされたケンサキイカの月別漁獲動向

前年同時期の 55%、平年の 53%、同じく水揚金額は 2 億 2,216 万円で、前年同時期の 41%、平年（過去 5 年平均）の 42%と近年で最も低い値となりました。

平成 17 年の月別の漁獲動向を見ると、7 月は魚体は小さかったものの沿岸域を主体に平年並みの漁獲がありましたが、漁獲の主体となる夏から秋季の漁況が平年を大きく下回りました。

スルメイカの資源動向 今後の漁場形成に期待！

これから山陰沖で漁獲されるスルメイカは、産卵のために南

下してきた冬季発生群が中心になります。この冬季発生群の全国的な資源の長期変動（図 5）を見ると、昭和 50 年代は低水準であったものが平成元年以降は増加して高水準となり、最近 5 ヶ年は比較的高水準で横ばいとなっています。平成 17 年の資源水準は平年（過去 5 ヶ年平均）を下回るが、昨年より高い水準と推定されており、今期の来遊量は平年並みになると考えられています。現在、山陰沖には冷水域が発達し、比較的沿岸域に潮境が形成されています。現在の主漁場は大和堆・竹島北東海域にあり、この魚群が順調に南下すれば山陰沖に漁場が形成される可能性があると考えられます

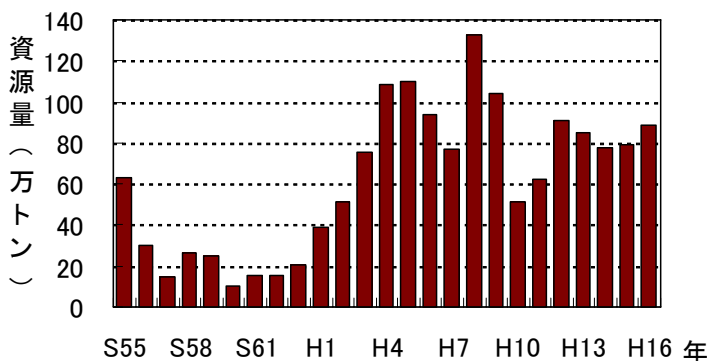


図 5 スルメイカ冬季発生群の資源量の推移

ケンサキカの生態と資源動向 予測は困難？

九州西岸から日本海西部におけるケンサキカの平成元年以

降の漁獲動向（図 6）を見ると、2 万トン前後から 1 万トン前後まで徐々に低下する傾向を示しています。近年では平成 13 年に 9 千トンまで大きく減少した後、平成 15 年にかけて沿岸域を主体に回復が見られましたが、依然として低い水準で推移しています。

ケンサキカは、スルメイカよりも暖かい海を好み、島根県では、秋には水深 60～100m 付近に分布し、5～7 月にかけて産卵のため岸近く（水深 20～40m）に接岸します（図 7）。また、日本海南西部に分布するケンサキカは、分布や回遊経路を異にする 2 つのタイプの生活集団が存在することが判っていますが、生態的に不明な点が多く、資源の変動要因はまだ未解明です。このため、年により大きく変動する傾向のあるケンサキカの正確な資源動向を把握するのは現状では困難ですが、ここ数年は減少傾向にあるようです。

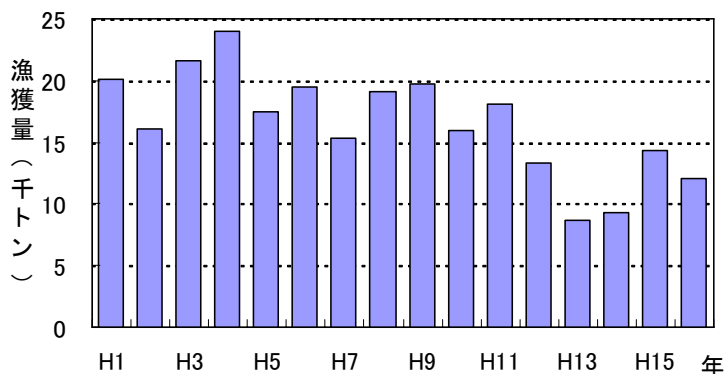


図 6 九州西岸から日本海西部におけるケンサキカの漁獲量の推移

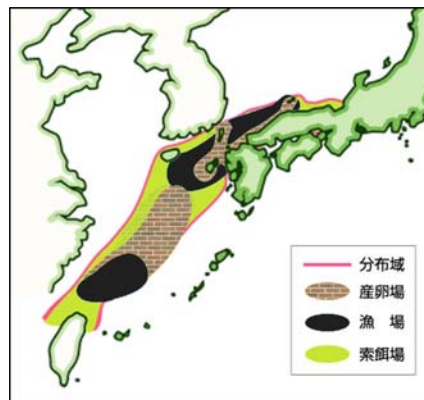


図 7 ケンサキカの分布域と産卵場
(独立行政法人水産総合研究センターホームページより転載)

《 11～12月の海況 》

11月	月平均	平年差	評価
浜田	19.9℃	+0.9℃	やや高め
恵曇	19.9℃	+0.3℃	平年並み

11月の平均水温は浜田では「やや高め」、恵曇では「平年並」でした。12月の平均水温は上旬は「平年並」でしたが、中旬は寒波の影響もあり浜田、恵曇とも平年を下回り14～15°台となり、下旬には浜田で一時12°台まで下降しました。

＜エチゼンクラゲ情報＞

◎ 速報

12/3 定置(大社町漁協) 大量入網(数千個)

12/4 定置(多伎町漁協) 10000個以上入網

12月上旬 定置(恵曇漁協):大量入網,六坊の定置はクラゲが多すぎるため、網を揚げた。

◎ 12月の概況

・12月に入ってから先月に引き続き沿岸の定置や底びき網にエチゼンクラゲの入網があり、また死んだ個体の入網も多くなっています。ただ、12月は時化続きのため入網状況を確認できない場合が多くなっています。



※ インターネットでクラゲ情報の提供を随時行っています。携帯・パソコンで下記をご覧ください。

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ik/>

《 11月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ、サバ、サワラ主体に793トン、総水揚金額は1億737万円でした。1統当りの漁獲量は264トン(平年(過去5ヵ年平均)の107%、前年の63%)、同水揚金額は3,579万円(平年の134%、前年の110%)でした。漁獲の主体となったマアジは、漁獲量は平年並みでしたが、1歳魚を主体に比較的大型の個体が漁獲されたため水揚金額は平年の170%となりました。西郷では、ブリ、マアジ、マサバ主体に総漁獲量6,023トン、総水揚金額は3億4,221万円でした。1統当りの漁獲量は1,004トン(平年の184%、前年の132%)、同水揚金額は5,703万円(平年の116%、前年の67%)となりました。漁獲の主体のブリは豊漁だった前年の35%(平年の73%)と大きく減少しましたが、マアジは平年の230%と過去5年では最も高い値となりました。浦郷ではマサバ、マアジ主体に総漁獲量2,456トン、総水揚金額は1億2,891万円でした。1統当りの漁獲量は614トン(平年の161%、前年の83%)、同水揚金額は3,223万円(平年の124%、前年の80%)でした。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、ケンサキイカを中心に21トンで、平年の172%、前年の313%、同水揚金額は1,811万円で、平年の166%、前年の190%と好調に推移しました。西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量はスルメイカ主体に25トンで、平年の44%、前年の95%、同水揚金額は1,083万円で、平年の68%、前年の94%と低調に推移しました。

【沖合底びき網漁業】

先月に引き続きエチゼンクラゲ大量来遊の影響を受け、漁場、魚種が制限されるなどの影響を受けました。

浜田港ではムシガレイ、アンコウが漁獲の中心でした。1統当り総漁獲量では前年同月を7%下回りましたが、水揚金額では4%上回りました。カレイ類では、ムシガレイが前年の漁獲量を69%、ヤナギムシガレイは33%上回りました。またソウハチは前年の2.5倍の漁獲がありました。その他の魚種では、アンコウは前年の93%、アナゴ・ハモ類は61%の漁獲に留まりました。

恵曇港ではヤナギムシガレイ、ムシガレイ、アンコウが漁獲の中心でした。

【小型底びき網漁業】

大田市漁協では、前年同月に対し漁獲量で14%、水揚金額で15%下回りました。主な漁獲物はアンコウ、イボダイ、ソウハチでした。アンコウは前年並みの漁獲でしたが、イボダイ、ソウハチは前年を17%、72%それぞれ上回っています。このほかヤリイカもまとまって漁獲されています(13.3トン、前年比102%)。

和江漁協では前年と比較して漁獲量で29%、金額で23%下回り、キダイ、イボダイ、アンコウが主に漁獲されました。キダイ、アンコウは好調だった前年のほぼ半分（51%、56%）の漁獲に留まりました。

【定置網漁業】

エチゼンクラゲの影響により、各地区で低調に推移しました。県東部では漁獲量は前年比45%、平年比55%、漁獲金額は前年比53%、平年比46%、県西部では漁獲量は前年比60%、平年比49%、漁獲金額は前年比114%、平年比25%、隠岐では漁獲量は前年比42%、平年比82%、漁獲金額は前年比115%、平年比66%となりました。漁獲物は各地ともマアジが主体となっており、全体の漁獲量に占める割合は県東部で17%、県西部で42%、隠岐で31%となりました。この他の漁獲物は、県東部ではカワハギ、ブリ類が、県西部および隠岐ではサワラ、サバ類などが漁獲されました。

【釣・縄】

県東部では漁獲量で前年比112%、平年比164%、漁獲金額で前年比101%、平年比156%と比較的好調に推移しました。県西部では漁獲量で前年比75%、平年比96%、漁獲金額で前年比73%、平年比88%と低調に推移しました。隠岐では漁獲量で前年比68%、平年比45%、漁獲金額で前年比59%、平年比104%と県西部と同様に低調に推移しました。主な漁獲物は県東部および県西部ではブリ、サワラ、ケンサキイカ、隠岐ではケンサキイカ、ブリ、ヨコワ、ソデイカ等となっています。

漁獲統計

平成17年11月1日～30日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	44	マアジ・マサバ・サワラ	18トン	794トン
	西郷	92	ブリ・マアジ・マサバ	65トン	6,023トン
	浦郷	53	サバ・マアジ	46トン	2,456トン
イカ釣り (5トン以上)	浜田	113	ケンサキイカ	182kg	20.5トン
	西郷	150	スルメイカ	169kg	25.3トン
沖合底ひき網	浜田	24	ムシガレイ、アンコウ	12.7トン	304トン
	恵曇	33	ヤギムシガレイ、ムシガレイ、アンコウ	Xトン	Xトン
小型底ひき網	大田市	283	アンコウ、イボダイ、ソウハチ	530kg	150トン
	和江	370	キダイ、イボダイ、アンコウ	646kg	279トン
定置網	浜田	41	マアジ、カワハギ類	379kg	15.5トン
	美保関	99	マアジ、カワハギ類、ブリ類	456kg	45.2トン
	浦郷	62	マアジ、カワハギ類	83.0kg	5.1トン
釣・縄	浜田	929	ブリ、サワラ類、ケンサキイカ	37kg	34.0トン
	五十猛	283	ブリ類、ケンサキイカ、メダイ	61kg	17.3トン

※ : 1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量÷延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。